

令和6年度 魚津市地域包括支援センター運営協議会 会議録

1. 日時 令和7年2月25日(火) 午後7時から午後8時30分
2. 場所 市役所第1会議室
3. 出席者 委員10名 事務局8名
4. 議事等
- (1)地域包括支援センターにおける柔軟な職員配置について 【資料1】
 - (2)介護予防給付等のケアマネジメントに係る委託居宅介護支援事業所について 【資料2】
 - (3)令和5年度事業報告及び令和6年度の取組について 【資料3】
 - (4)令和5年度収支決算及び令和6年度収支予算について 【資料4】
 - (5)魚津市地域包括支援センターの運営評価について 【資料5】
 - (6)令和7年度事業計画(案)について 【資料6】
 - (7)共生社会の実現を推進するための認知症基本法について 【資料7】

【議事と質疑、その他意見】

事務局	【資料1】 説明 【資料2】 説明
	質疑 なし
事務局	【資料3】 説明 【資料4】 説明 【資料5】 説明
	質疑 なし
事務局	【資料6】 説明
委員	認定者の数について、(介護保険事業計画の)7ページの推計と変更はないですか。
事務局	若干前後はありますが、2600人程度で推移しております。 このまま、年度末もそのような見込みとなっております。要支援の方が多いというのも傾向としては変わらないような形になっております。
委員	資料の3ページ「介護予防ケアマネジメント」、給付管理ですが、直営4687件、委託1066件は、令和7年3月末までだと実績はどれぐらいになりますか。 給付管理をするということは在宅でいらっしゃる患者さんです。ケアプランを必要としている方は、毎年5%ぐらい減っています。3年で15%ぐらい減りました。

	<p>それで余裕があったので、委託を受けてほしいと言っていたら、受託させていただくことにしました。</p> <p>私たちの感覚からすると、在宅の方々にケアプランが必要な方々は明らかに減っているような気がします。おそらくですが、施設志向がより強まったり、有料老人ホーム等もできたり、あと病院とか老健、特養とか、昔は待機者がいらっしやいましたが、今は空いています。すぐに入れないから、在宅で頑張るといことでケアマネさんにお世話になるという傾向だったのですが。</p> <p>そこで、今の見込みをお聞きしたのですが、変わらないということであれば、うちだけの問題かと思うのですが。まず、そのような感触を持っております。</p> <p>令和7年度計画(案)を見ますと、市役所の中の包括支援センターにお勤めになる方の数を変えないのなら、委託する部分と直営の部分と、配分は変えないものと認識しました。人員配置の問題で、私たちも準備がありまして、7つになった委託先に、もっと包括の仕事を委託されたいのか。逆に言うと、今のニーズを変えないでやっていきますが、その準備もございまして、その辺の見込みをお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>地域包括支援センターとしましては、正直なところケアマネの負担は減っておりません。というのは、総合相談、身寄りのない方、困窮された方ご高齢の方からの、様々な相談が大変多くなっておりますので、ケアマネ業務に専念できないような状況になっております。</p> <p>そのような中で、出向していただく方も増えていないのは、全国的な話だと思っておりますが、ケアマネのなり手があまり増えず、事業所からは「包括に前よりも同じ数だけ派遣することができない」という声をいただいて、何とかして人を探しているという状況です。</p> <p>事業者には余裕があるのであれば、包括としましては大変ありがたいお声なので、そこは事業者さんの方に委託をお願いしたいというのもあります。</p> <p>あわせて、冒頭の資料の説明の中でも少し触れたとは思いますが、事業所自体が、介護予防支援事業所という形の看板を掲げていただきたい。今は要支援の方は包括から委託しかできませんが、指定事業所になっていただければ、利用者を獲得に行く、宣伝なり、営業活動が自由にできると思われれます。</p> <p>ですので、手を挙げて指定を受けていただきますと、プランの作成を委託で受けられるよりも、報酬単価も高くなっておりますので、ご検討いただきたいということです。事業所にはご案内していますが、なかなかハードルもあるのか、今のところ予防支援事業所にはなっていないので、こちらは委託という形で進めさせていただきます。</p> <p>余裕があるということもお聞きしましたので、他の支援事業者も同じようなお考えなのかどうかもお聞きしながら、お願いするところはさせていただきたいと思っております。</p> <p>あとは、同じ世帯の中に介護1以上の認定の方と、要支援になられた方がいらっしやった場合、ケアマネが2人関わるというのは、その世帯としては、1人のケアマネさ</p>

	<p>んに状況を見ていただいて、必要な望ましいプランを立てていただくということも理想かと思っております。</p> <p>そのような世帯についてはぜひ、受託を受けていただければ、利用者にとっても包括にとっても大変ありがたい話だと思っております。</p>
委員	<p>委託の割合を増やしていきたいという認識ですね。</p> <p>先ほどの、支援事業所指定の話ですけど、例えばどこかだけが、指定事業所になりますと、住民の選択としては、市役所の包括に行くか、私ども事業所のケアプランを選ぶかという話になると思います。</p> <p>おそらく市役所に世話になりたい、と思われるので、どこかだけが手を挙げて指定を受けるということは、多分ないと思います。</p> <p>指定を受けたとなると、いろいろと市役所側との書類等のやりとりが減るとか、いいこともたくさんあるとは思いますが、なかなかそのようにはならないというのが私の感想です。</p>
事務局	<p>そういうご懸念もあると思いますが、一方で認定結果が出た際に、介護認定の結果をお知らせする通知の中に、「認定をもらわれましたら、このようなところに相談ができますよ」という一覧を必ず同封させていただいております。</p> <p>その際に、貴事業所さんという選択肢もありますよ、ということは、お知らせすることができます。本人が選択する幅ができますし、事業者さんが1ヶ所であれば、選べる範囲は広がるので、効果はゼロではないと思っています。</p> <p>ご家庭の中にあらかじめお世話になっている方もいれば、そちらと同じ事業所にできますよと営業活動もできると思います。</p>
委員	<p>うちは今、余裕があるという情報を共有したり、逆に今は委託を受けられないという情報を連携してもらえるといいと思います。患者の感情とか利用者の情報も共有することになりますよね。</p> <p>職員の募集ということを書いていましたけど、募集で補充できないときは、この移行措置みたいにしばらくは猶予があるのですかね。これは定員が割れるとまずいですよね、法律上は。</p>
事務局	<p>募集しているのは介護支援専門員ですので、基準は満たしている予定です。</p> <p>魅力発信事業の募集方法ですけど、現在まだ案の段階ではあるのですが、今考えているのは、例えばサービス事業者連絡協議会とかにお話をさせていただいて、手を挙げていただける事業所を募集させていただきたいと思っております。できるだけ、人数もあるので幾つかの事業主体に手を挙げていただいて、2ヶ所以上くらいを回れるような案で進めたいと考えておりますので、また皆さんご協力のほどよろしくお願いいたします。</p>

事務局	【資料7】説明
委員	認知症の計画はいつまでの整理になりますか。
事務局	<p>今月初めて、骨子案という形で示されました。当然計画作成は、予算等も伴うものですから、決算関係では7年度予算の中には盛り込んでない状況です。努力義務ですから、県内の様子も見ながらと思っています。</p> <p>まず、骨子案がまだ固まっておりませんので、県の計画を見ながらになると思います。市としては、計画をつくることよりも施策をしっかりと進めるということの方が大事かと今の段階では考えております。</p> <p>計画につきましてははまた考えていくのですが、先ほど紹介のありました、高齢者保健福祉計画の中に認知症、というところで、45ページに項目を1つ設けまして、この計画を作ったのが令和5年度の話ですので、その段階では県の方針も全く示されておりました。</p> <p>ただそのような中で、国の方向性を踏まえた施策の推進を、例えば、認知症の人の声、ご本人の声を聞くであるとか、その当事者、家族の尊厳をしっかりと守りながらというところを盛り込んだものにはなっております。</p> <p>現段階では、これを粛々と進めていきたいと思っています。同時に計画策定につきましても、検討して参りたいと考えております。</p>
委員	高齢者が1人で暮らしているので、認知症があつて暮らしが破綻しているだろうという方も把握ができない。
委員	<p>予防的、法的手段として、健康診断や癌検診とか、それと同じように、ある程度の、すべて後期高齢者になった時点で健康診断をする、認知症予防の健康診断をする、ということがあつてもいいのかなと思います。これはお金もかかる話なので、一朝一夕にはいきませんけれど。</p> <p>特に、先ほど先生が言われたように、一人暮らし高齢者がどんどん増えていますので、早期発見、早期治療が認知症には一番いいと思います。</p>
事務局	<p>ご尽力いただいております。この場を借りて御礼申し上げます。</p> <p>ご提案にございました後期高齢者の健康診断の話ですが、実は健康診断のチェック項目の中には、認知症を疑うような、そういった項目も設けてあります。</p> <p>それを書いて診断を受けていただきますと、かかりつけの先生から「おや?」と思われるようなことがありましたら、どこかにつなぐであるとか、ご家族にお話するとか、そのような流れになるような仕組みは一応設けてあるのですが、残念ながら、健康診断をあまり受けていらいっしょらないような状況もありますので、この健康診断の受診率を高めるような取り組みも関係課と協力しながら進めて参りたいと思います。</p>

委員	<p>本人のプライドとか、プライバシーという問題が指摘されると反発されることもあるので、気をつけながら相談対応していただければと思います。</p>
事務局	<p>毎月、認知症の無料相談会を市役所で予約制で行っております。その枠は必ず埋まるので、相談をつながなければならぬ家族さんはコンスタントにいるという思いでいます。</p> <p>一番難しいと思うのは、先生も言われた「本人のプライド」があるというところはもちろん、なかなかお医者さんに連れていけない、というところで悩まれるご家族さんが多いのではないかと考えていて、そのような家族をどう支援していけばいいのか、いろいろな関係機関、ケアマネさん、この人の強みになる関係機関はどこか、日々考えながらやっています。</p>
委員	<p>一昨年からの11月から、久しぶりにこのセンターに戻ってきましたが、前の3年間と比べるとかなりの件数の認知症の相談を担当しているような感じで日々追われています。</p> <p>2月に入った途端にもものすごい量の認知症の相談を受けて、毎日昼休みがないぐらいでした。冒頭審査に関しては私が在籍していた平成28年から、認知症相談窓口をどうやって作ろうかということで、まず、県下ではまだしてなかったと思うのですが、自治体事務所の無料相談会を提案させていただきました。</p> <p>この2市2町の中では定期的ではなくて、簡単な無料相談会はしていましたが、あまり長く続かなかったです。</p> <p>平成30年から少しずつ2市2町、朝日、入善と黒部ということで相談会に行っておりまして、今日も朝日町に行ってきました。大体地域の方では先ほど出ましたように、どのような形で受診につながればいいのかということがあります。</p> <p>お話していくと、ご家族が全く、認知症について知らない方がいて、まず本人の前に、ご家族を説得しなければいけないということもあります。</p> <p>受診相談でこられた兄弟の方が電話をかけてきたけれども、一緒に暮らしている旦那さんに話をしたら、旦那さんは受診させたくないと言って、ご家族さんが認知症に対してあまり無関心ということもあります。</p> <p>対象となる方ももちろんですけど、それを取り巻く環境をどのような形で埋め、理解を深めていくのかということは、やはり住んでおられる自治体の方々のご協力が無いと難しいと思います。</p>
事務局	<p>認知症理解促進に向けての取り組みの状況について、認知症サポーター養成講座を通じて地域住民や民間事業者等を対象に尽力されておられることがわかりました。</p> <p>訪問しているおうちで、お孫さんと同居している方もおられて、小さなお子さんはなかなか認知症の理解が難しいかな、と思うことがありました。</p>

おばあちゃんの言動に対してご家族が、お孫さんに「こういう病気だよ」という一言で片付けて、お孫さんがちょっと怪訝そうな声が出るという場面を見かけたことがあります。

以前、認知症キッズサポーターという言葉を知ったことがありまして、今後の高齢社会の担い手となる地域の子供たちを対象として、学校で何か行動をしてみるとか、そういう取り組みもあつたらいいかと思えます。

教育の場で、毎年、小学生を対象にサポーター養成講座をさせていただいて、去年は星の杜小学校、今年は経田小学校のような形で、毎年計画は立てております。道下小学校の子供たちにアンケートをとりましたら、とてもうれしい声がたくさん届きました。

認知症の方、この病気が何となくわかった。だから、同じことを、おばあちゃんが言っても仕方がない、何回でも答えてあげようと思ったとか、優しく、声を聞いてあげようと思ったとか、困っている人がいたら誰かに知らせあげるとか、すごく素直なやさしいアンケート回答が来まして、よかったと思っています。

そういう小さな積み重ねをこれからも続けていくことによって、みんなが認知症を理解して、認知症の人に優しいまちとなれるような取り組みを続けていきたいと考えております。

委員

私が担当している独居であまり身内のいない方で、軽い認知症になられてから、一切お風呂は入らない、ゴミ屋敷状態の方がいます。

周りで協力しながら、家の近所から虫が湧くとか、雑草が多いとか、何とかしてくれといろんな話が来ます。

そういうときはやはりケアネットですね。ご近所に見守りをお願いして、お手伝いできる人はお手伝いする。そういうことをずっと続けてきて、ゴミも少しは減り、お風呂も何回も「デイサービス行こうね」と説得しました。

この家で住むためには、そういったサービスを利用して、健康寿命を延ばそうねってお話しながら支援しています。サービス利用を決めて、お迎えに来たら、私今日ちょっと具合が悪いから行かないっていうのは1年半、2年ぐらい続きましたかね。

今は、自分にすごく合っているみたいで、週に2回、デイサービスに行つて、お風呂に入るようになって、認知症の症状が落ち着かれたような気がします。

足も、前につんのめるように、支えなければ歩けなかった人が少しよくなりました。

ただ、やはり認知症を改善するという事は難しいと思うので、本当は施設に入つた方が本人のためにはいいのだろうとは思いますが、包括とかいろんな人が関わつて、今は何とか本人が「自宅で住み続けたい」という望みが叶っています。地域の人たちで見守ってもらえる、そういう環境の中に入れれば、何とかその方が望む生活をつなげられるのかなと思います。

この方がそういうふうになつたのは、サロンと地区のプログラムに必ず参加しておられたからだと思います。そういうところに参加していると、いろんな人が、あの

	<p>人今どうしてるかな、とか、大丈夫かな、という思いが出てくるので、うまくやってこられたのかなと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>今日はいろんなお話が出ていて、今感じていることは、日々包括とやりとりをしているはずなのに、こういうこともあるのかと、この場で聞いていて思ったことがいろいろありました。もう少し社協としては、いろいろ包括の皆さんともっと連携をしていかなきゃいけないというのを改めて今感じていました。</p> <p>いろんな地域の方々、そのつなぎ役としての社協の役割があると思っているので、そういうところでは少し私もできることがあるのではないかなと。ただ、地域の中で今何が起きているか、というところをちゃんと共有しながら進めていかないと、間違った方向、それぞれが勝手な方を向いていってももったいないと思っていました。</p> <p>特に先日認知症の地域ケア会議の中でも、見守りのネットワークのことも知らなかったとかということもあり、やはりまだまだ地域の中で伝えていかなきゃいけないことがあるのではないかと思いました。</p> <p>あとは福祉人材介護職員魅力講座の話ですが、社協もそのような講座をよくやります。でも、なかなか最近難しく、親子でとなると去年も障害を対象の事業所めぐりをやりましたが、2組ぐらいしか参加がなくて、なかなか声のかけ方などの工夫が要る時代になってきました。お母さんたちもかなり忙しくて、平日の2回コースでやったんですけど、なかなか集まらなかったということがあり、土日によればよかったのかと感じました。</p> <p>そうすると事業所の問題もあり、また福祉教育という視点では、いろいろな福祉教育のオーダーが社協にもあります。割と障害の場合は社協に来るみたいな傾向もあります。社協には児童センターがあるので、福祉講座みたいのをやるときに、認知症の講座を試みたりすればいいのかとったり、いろんな意味で連携しなければいけないと感じました。</p>
<p>委員</p>	<p>ケアマネ部会としては包括支援センターとは切っても切れない関係というか、いつも連携しながら仕事させていただいて、やはり困難ケースになるとケアマネ1人では、まだ事業所内でも相談しながら対応しているところではありますけれども、自分たちの事業所だけでは解決できないとなると、やはり包括支援センターの方にお力をいただいて、そこからまた関係機関を増やしていったら、1事業所だけじゃなく、3つ4つと専門家を増やしていき、何とか支えていると思っています。</p> <p>特に今、認知症の方のお話ではありましたが、本当にどんなお話聞いてもうなずくような話ばかりです。家族関係の希薄化ですとか、県外におられたりとかで、身寄りのない方も実際おられたりして、そういうときには市の担当者が窓口となって成年後見の市長申立の窓口相談ができるということだけでも、ケアマネとしてはかなり心強く、市が控えてくれているなと思っています。</p>

	<p>包括支援センターの方は本当に多岐にわたって事業をしておられるのもよくわかっていて、私たちのケアマネとの連携で困難事例だけでなく、先ほど言われたように、子供たちに支援をされたり、銀行へ行って対応をされたりすることも、新聞などで拝見させていただいております。</p> <p>居宅、ケアマネ部会としても、委託を受けられるところは受けて、また、きちんと支えて、お互いに協力しながらやっていければいいかなと思っています。</p> <p>先ほどアプリを使って何か情報連携みたいな話があったと思うのですが、これは国保連のデータ連携システムとはまた違う形になるのでしょうか。</p>
事務局	<p>それとは違い、実際には普段FAXでやりとりしているようなものを、アプリを使って行います。LINEをイメージしてもらえるといいと思うのですが、添付書類も送れるイメージのものになります。</p> <p>国保連のデータ連携システムも、進めていかなければいけない喫緊の課題でもあるのですが、用途としては違うイメージに思っております。ただ、市内の事業所間、ケアマネさんたちとすぐつながれるような環境が大切だと思うので、それプラス今まで電話だと担当者がいないとまた折り返しかけてなどとなるところが既読みたいな形で、確認いただいたこともすぐ分かったり、返信も各々のタイミングで出来たりするので、連携としては良い手段になるのではないかと考えております。</p>
委員	<p>各事業所の経費負担は大体決まっているのですか。</p>
事務局	<p>市町村で経費をみる予定で、事業者の負担はなく、そのアプリをダウンロードしていただいて、例えばケアマネさんの携帯とかになる場合もありますし、事業所のパソコンとかでも入るような形をイメージしております。</p> <p>すべての事業所さんすべてのケアマネさんに入っていただきたい、というのが一番の目的なので、かかる費用については市でみる形とっております。</p>
委員	<p>ケアマネが個人で持っているスマホにその情報がいっぱいとなると、セキュリティの問題はどういう感じになっているのですか。</p>
事務局	<p>セキュリティについてもしっかりとしたものにはなっていますが、ただ送り間違いとかの人的ミスはどうしても避けられないと思うので、そこをしっかりと確認の上、十分に注意した運用をということで、マニュアルなども考えてはいるので、その辺りはしっかりと強化していきたいと思っております。</p>
委員	<p>指定を受けた場合、介護予防支援費の増額や、包括支援センターとの書類の手間が減るといったメリットがあるというふうに思っているのですが、そのまま包括が担当されるという認識でよろしいでしょうか。</p>

事務局	<p>委託であれば総合事業を使っておられる方も委託でお願いできるわけですが、この指定を受ける場合に、総合事業のみご利用の方、例えばデイサービスとか、訪問ヘルパーだけしか利用のない方は、この指定ではなく委託で受けていただくという、2本立て、委託契約もしていただきながら指定を受けていただくという形で、すべての方を担当していただけます。</p>
委員	<p>相談で気になっているのは、要支援から区分変更したときに、要支援のときのケアマネージャーさんの情報が、要介護1になったときに、変わられたケアマネージャーさんへ、情報のやりとりがうまくいっていないということをよく聞きます。</p> <p>情報のやりとりをしっかりとっていただき、病状の確認をするときに情報のかみ合わせが悪くないように、ちゃんと連携していただくことをお願いいたします。</p>
委員	<p>成年後見で市町村申立が増えてきたということですけど、会の方にもたくさん依頼が来ております。そのような方は、いろんな意味で大変な部分もあり、お金もお持ちでないことが多く、なかなか手を挙げてやりましょうという人は少ないのが現状です。</p> <p>申立の費用についても、市町村で支払いできるという話ですけども、予算が多分決まっています、何でも該当するわけではないと思っておりますが、本人の負担金や成年後見人への報酬を支払っている事例はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>申し立て費用の助成については、基本的に市長申し立てであれば登記費用や、それに係る郵送代などすべて市で負担しておりますし、成年後見人等への報酬助成についても、裁判所から、年額で見たことがあるのは13~14万ほどの年額報酬になりますけれども、一定の要件を満たせば市から全額助成するという制度も整っておりますので、基本的にお金がないから成年後見制度を利用できないことにはならないようにしています。</p>
委員	<p>10何万というと、月1万という計算で、手のかからない方の報酬額ではないかなと思いますけども、基本的には病院だとか、入所している方については、月最低2万ほど。在宅だと、月最低3万ほどということが以前は言われておりました。</p> <p>市町村で持っている予算は、お願いしたから「じゃあつけましょう」というわけにはしにくいのかなと思います。そういう方の後見人をしようという、その会の人間としてはなかなか手が挙げにくいのが現状だと思います。</p> <p>これを何か、どうやって社会で守っていきけるのか。これからもっともっと増えていくのだろうという気もします。何かその辺の仕組みづくりを考えていかないと大変なことになっていくのではないかと気がしています。</p>
事務局	<p>報酬助成の予算につきましては、6年度の実績が3件あります。予算がなくなりそうな場合は、補正等で対応しますので、予算については心配されなくてもいいと思います。</p>

	ます。
--	-----